

本会議初日質疑

議案第1号 令和5年度小松市一般会計補正予算(第9号)
補正額 360万円

会 派 自 民



高野哲郎 委員



動画でチェック

◆自治体ライドシェア運行費について

Q 昨年12月20日の国交省のライドシェアに関する発表から本会議初日の議案提出となった経緯経過の説明を。

A 国とも何度も協議を重ね準備が整い、北陸新幹線開業による来訪者の増加、能登半島地震による避難者の移動の不便解消のため初日議決とした。

Q 予算案360万円の内訳は。

A アプリや運行管理等を委託する費用。

Q 本予算も含めると約4,800万円だが、来年度以降のランニングコストは。

A アプリ改修費は減額できると考えている。

Q 地域の交通関係の皆様と、導入についての合意形成はできているのか。

A 運行時間等についてはタクシー協会との合意、導入については小松市地域公共交通活性化協議会の承認を得たもの。

Q ドライバーの資格制限等は。

A 年齢要件、運転免許要件、アプリを活用できることなど。

Q 大臣認定講習の内容は。

A 講義2時間と技能実習。

Q ドライバーの安全確保、また報酬は。

A ドライブレコーダーを設置。報酬は利用料の7割。

Q 事故の際の保険の対応は。

A ドライバーが加入する自賠責保険、任意保険(対人、対物無制限)を適用。市の責任として、自家用有償旅客運送保険に加入。

Q 一般車とタクシー会社の車とでは車検のレベルが違ふと考えるが。

A 必要であれば、国等への提言、要望にタクシー業者とともに活動できればと考える。

Q パブリックテクノロジーズ社のアプリを採用した経緯は。

A アプリ改修を早急に整備できること、今後様々な公共交通の再編に向けて対応できることにより採用。

Q 地域交通の確保について市長の考えは。

A バス、タクシー事業者などプロで担っていただく部分と、それを補完するものをうまく組み合わせながらベストマッチを目指していきたい。

小 松 志 士 の 会



濱口淳也 委員



動画でチェック

◆(仮称)小松市版自治体ライドシェアについて

Q 被災者の方の利用について。

A 2月29日から3月2日までの3日間、小松市内での運行を17時から24時の間、無料とするものである。



木村賢治 委員



動画でチェック

◆(仮称)小松市版自治体ライドシェアについて

Q ライドシェアを成功させるには、タクシー業界とよく意見を交換し、共存していくこと

が不可欠だと思うがどうか。

A 市はタクシー事業者の意向を踏まえ共存共栄を図っていく。多様化する移動ニーズに対応可能な新たな地域公共交通体系を構築していきたい。

自 民 党 こ ま つ



深田博智 委員



動画でチェック

◆(仮称)小松市版自治体ライドシェアについて

Q 小松市の公共交通の現状は。

A バスは北鉄加賀バス、北鉄白山バスが運行する生活路線バス13路線、それと市のコミュニティバスとして市内循環線、木場潟線がある。利用者数は、令和4年度で年間43万人余り。5年前との比較では、コロナ禍の最中であったが、14万人が減少した。一方タクシーは、主に小松近辺の南加賀エリアでタクシー事業者は7社。台数は非公表という部分もあるが、南加賀エリアで100台から120台を推計している。全国的に見ても、コロナ禍前よりタクシー台数は約20%減少しているという現状。

無 会 派



橋本米子 委員



動画でチェック

◆自治体ライドシェア運行費について

Q 安全確保策が遠隔点呼のビデオ通話で、対面での健康状態が確保されない問題がある。

A ドライバーと直接対話できる非対面点呼も認められている。

Q 事故処理体制の責任と保証が運転者個人にならないか。

A 事業主体は市で、最終責任は市が負う。自家用有償運送保険に加入して対応に当たる。



会派自民
おもて やすじ
表 靖二 議員

代表質問 一括質問

千松閣の 代替施設について



動画で
チェック

◆市の財政について

Q 収支の概要及び経常収支比率について。

A 歳入は市税全体では交付金を含めると169億5千万円、歳出では人件費約56億円、扶助費121億円余、物件費77億円余、補助費等では62億円余を見込んでいる。収支全体として一般会計では516億5千万円、全会計では1,085億5千万円を計上している。経常収支比率は、令和4年度決算では91.3%、令和6年度当初予算時点で試算した場合は、91%から95%程度の見込み。

Q 公会計化された学校給食費について、完全無償化されているが、経常費とされているか。

A 毎年支出される経費であり、経常費に分類される。

Q 近年の公共投資の推移について。

A ここ10年程度の災害復旧費を除く投資的経費は、概ね100億円程度となっている。

Q 市の貯金とも言える財政調整基金残高について、近隣市と対比しつつ問う。

A 令和4年度末における残高は、金沢市を除く近隣市で23億円から35億円程度と本市の15.5億に比べて大きくなっているが、本市の基金残高は他市と比較すると少なく、決して余裕のある財政状況とは言えない。

◆市民病院の夜間保育について

Q 週2回実施、1名から2名の利用、年間1,200万円の予算とあるが、より実施日を増してはどうか。

A 病院の利用者アンケートや利用実績から週2日の開園でニーズを満たしていると考ええる。医療機関などに対して、実際に外向いて丁寧に周知するなど、利用促進につなげていきたい。

Q 病院会計のみに頼らず、市の行政の主要な子育て支援策として充実してはどうか。

A 状況を見極めながら、医療だけでなく福祉のニーズも的確に捉え、柔軟に検討していきたい。

◆能登半島地震について

Q 液状化現象とその対策について。

A 浜田町や川辺町などにおいて、液状化と見られる被災箇所については、地盤改良などの液状化対策工事を検討している。

◆老人福祉センター千松閣について

Q 今年度末をもって廃止予定の千松閣につき、代替施設の建設を求める請願が市老人クラブ連合会から出されているが、見解を問う。

A 家庭風呂の普及率が100%近くまで高まり、かつ類似の機能を持つ公共・民間施設が複数立地していること、さらに利用者の減少や固定化など課題等を踏まえると、多額の費用をかけて新たに代替施設を整備するべきではないと考える。

◆小松サン・アビリティーズの改修について

Q 令和6年度には、大規模改修が予定されている。おもちゃ図書館等、既存の利用者への対応について問う。

A 工事期間の周知を行い、代替利用施設の確保をお願いする。おもちゃ図書館については、備品を近隣の別施設へ移動し、工事期間中でも継続して利用できるように協議・調整を行っている。





小松志士の会
みやにし けんきち
宮西 健吉 議員

代表質問 一括質問

積極投資で好循環



動画で
チェック

◆令和6年度予算編成について

Q 当初予算で初めて500億円を超える。積極投資で好循環を目指す目的、目標は。

A 2040年ビジョンに描いた将来像の実現に向けた新しいまちづくりに挑戦する。

◆教育問題について

Q 不登校と教職員の資質について。

A 不登校の背景は多様であることが分かっている。教師は一人一人の子供たちを見取る力を持たなければならない。

Q 全国で29万人、本市は何人か。

A 全国と同様の割合で、小中あわせて千人あたり31.7人。

Q 不登校生と教職員の因果関係は。

A 不登校児童生徒の悩みや困り感の原因は多岐にわたり複雑化しており、教職員研修やチーム担任制での対応に期待。

◆物流2024年問題について

Q 働き方改革関連法とは。

A 労働者個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方の実現を目指し制定されたもの。

Q 地域交通推進費について今回、自動運転バスと自治体ライドシェアで2億8,940万円。本市の地域交通をどう描かれているのか。

A バス、タクシー、自治体ライドシェアなど様々な交通モードを組み合わせ、市民や来訪者にとって今よりも便利な移動手段の構築に向けて、経費にも配慮しながら取り組んでいく。

◆金額で見る本市と小松基地との関係について

Q 防衛省の補助金、交付金は。

A 令和4年度で13億3千万円余となっている。

Q 小松基地発注の物品、役務について市長の見解は。

A できるだけ地元調達を要望していきたい。

◆公共施設マネジメントについて

Q 私は千松閣の新しい代替施設設置請願には反対である。はつらつセンター、せせらぎの郷で十分である。市長の見解は。

A 施設の再整備は行わず、類似の公共施設や市内各地の民間施設の活用シフトしていただきたい。

◆新病院建設に向けた基本構想と未来型図書館について

Q LGBT対応の見解は。

A 性別、年齢、国籍、障害、いろんな分野を包含して考えていきたい。

Q 日本近郊には権威主義国家北朝鮮、ロシア、中国が存在する。地下シェルターについての見解は。

A 必要な面積を確保することは非常に難しい。必要性について今後検討していく。

◆花坂地区産業団地について

Q 整備概要は。

A 正蓮寺産業団地の南西側に位置し、建設発生残土の埋立てと山林整備により約15ヘクタールを確保する。

Q 進捗状況は。

A 約4割の地権者から用地を取得している。

◆石橋川導水路、遊水地整備について

Q 整備の概要は。

A 第一段階として約4.3ヘクタールの遊水地を整備し、約1万7千立方メートルの雨水を貯留する。

Q 最終的には何立米か。

A 将来的には約6万6千立方メートルの雨水を貯留する。



自民党こまつ
かわさき じゅんじ
川崎 順次 議員

代表質問 一括質問

千松閣など老朽化した
施設に対し、将来の
負担にならない対応を!!



動画で
チェック

◆能登半島地震について

Q 本市の被災状況、対応は。

A 住家被害は2千件を超え、インフラ、公共施設等の広範囲にわたり被害が発生。復旧復興に向けて取組を進めている。

Q 能登地方の災害に遭われた方々の支援は。

A 人的・物的支援、広域避難者の受入れなど、引き続き必要な支援を行っていく。

Q 国・県からの支援金の状況は。

A 被災者生活再建支援金最大300万円等が支給される。

Q 本市の地震からの力強い一歩をどう踏み出すか。

A 災害時の様々な備え等について、検証と拡充が必要と実感している。部長級ポストを新たに設置し、市組織体制を強化したい。

◆令和6年度予算について

Q 2040年ビジョン初年度実現に向けての取組は。国際空港と新幹線は全国でも小松市だけではないか。願ってもない飛躍のチャンス。

A 対話とコミュニケーション、新しいまちづくりへの挑戦を方針に、政策立案や予算編成に真正面から向き合っている。

Q 都市計画道路整備も必要。外環状道路今江三谷線の未整備区間も整備が重要。

A 令和6年度予算に調査費を計上。関係機関との協議、調整が整えば、令和7年度から本格的に事業着手したい。

Q 城南村松線の四車線化もスピード感をもって進めよ。

A 市として、事業が円滑に進むよう地元調整など県と連携し、早期の実現に向けて取り組んでいきたい。

Q 好循環を加速させるため企業誘致、新たな産業団地の必要性。若者の小松からの流出を防ぐ仕掛けが大事。

A 産業創生、企業誘致により、若い世代が地域に定着することによって、若者が楽しめるエンターテインメント等の立地が促進されるよう、まちの好循環につなげていきたい。

Q 今年度、高齢者に対しどんな対策を講じていくか。

A 市民病院の新病院基本構想の策定、事業所サロンの開設やeスポーツ促進など、高齢者の命を守り、健康で暮らし続けられるよう政策立案に努めている。

Q 先送り体質からの脱却、将来に必要な行政需要に対する取組は。

A 積年の課題に真正面から取り組むことにより、安定的な行財政運営に取り組んでいきたい。

◆公共施設マネジメントについて

Q 6割以上が30年以上経過、更新時期を一斉に迎える。急速な人口減少による財政の負担増、医療費介護費等による影響が考えられ、利用者ニーズなども検討が必要。次世代に重い負担になる。自治体経営を総合的にマネジメントしていく必要がある。

A 本当に必要な施設なのか、より効率的な整備や運営ができないかなど、自治体経営の視点から熟慮し、よりよい資産として次世代につなげていかなければならない。

◆J-クレジットの活用

Q CO2削減に向けての本市の取組は。

A 憩いの森等で市と民間企業が連携して行っている民有林の森林整備活動等、認証取得に向け積極的に取り組んでいきたい。

◆蛍の里づくりについて

Q 小学生の子供たちの自然環境への取組は。昭和40年代位から蛍の群舞が見られなくなった。蛍が舞う風景を復活させては。串川公園でぜひ子供たちのために!

A SDGsの観点からも、串川の蛍の里づくりはとても素晴らしい題材であると思う。